

著者の活動分野の広さに驚かされる。日本の気象学の世界でもこのような広範な活動分野を持った研究者が

これから育って行くのであろうか、と楽しみになった。
(気象庁気候情報課エルニーニョ監視予報センター
栗原和夫)

編集後記：今年の夏も暑いのでしょうか。この原稿執筆の5月中旬頃の時点で、北海道育ちの私にとっては十分夏本番という気がします。ついひと月前まではコート無しでの通勤はつらかったのですが、今ではワイシャツも邪魔なくらいです。関東に出てきてかれこれ8年目になりますが、毎年経験しているこちらの夏の暑さにはどうにも慣れることができそうにありません。何かよい涼み方でもあれば教えてください。

さて、私が天気編集委員会の仕事に携わってから何とか1年あまりがすぎて、とうとう編集後記の順番がまわってきました。そこでこの場を借りて、会員のみなさんに投稿に関するお願いをしたいと思います。

私は編集委員会の中では、生のままの投稿原稿と、天気に掲載される組版後の原稿のチェックを担当しております。印刷業者が組版したものに誤字脱字がないかどうか、数式は正しく表現されているか、図表の体

裁におかしなところがないかななどを重点的にチェックするのですが、これは投稿された原稿が全面的に正しいという前提のもとでおこなっています。しかしこれまでに何度か掲載号当月になってから著者に確認、訂正を求めたことがありました。主なものは、本文中の人名・機関名や記号の添え字（上付、下付文字）、参考文献中の雑誌の巻・号数やページ番号などの確認、同一用語の異なる表記（レーダーとレダなど）の混同といったことに対する訂正です。これら著者にとっては本質ではないささやかとも思えることが、時には読み手を混乱させ、正確に論旨を伝えられない文章となってしまうこともあります。

投稿された著者の方もお忙しいとは思いますが、せつかくの論文を台無しにしないためにも細心の注意を払っていただくよう、お願いいたします。

(上出一美)